

武蔵大学社会学部グローバル・データサイエンスコース(GDS)

ガイダンス資料

社会学部教務委員長

中西祐子

(1) GDS コースの概要

GDS コースは、グローバルかつ学際的な指向をもち、社会学的視野とデータサイエンス・スキルを修得した学生を育成するために、所属学科にかかわらず、幅広くかつ奥深い学修を目指す、社会学科、メディア社会学科に共通のコースとして 2017 年度に新設されました。

GDS コースは、社会学科・メディア社会学科両方に配置される専攻コースである。1 年次に一部クォーター科目を取り入れ、海外での英語学習の機会を設けるとともに、短期集中で大学での学びに必要な基礎的な能力を獲得する。2 年次以降は、多様な方法科目のもと、社会調査、分析の技法を多数学ぶとともに、留学やインターンシップといった体験を重視した学びを「GDS 実践」として修得する。卒業論文、卒業制作に加え、卒業活動を卒業要件に加えることで、より社会的な実践力の高い学部教育の集大成の機会を設けている。

学生は入学した学科(社会学科もしくはメディア社会学科)に所属し、GDS コースに所属します。**GDS コースに所属した場合、所属する学科の卒業要件とは異なった、GDS コース固有の卒業要件が定められています。**

GDS コースに所属して卒業した場合、学士(社会学)の学位が授与され、GDS コースを修了したことになります。

(2) GDS コースへの所属

① GDS コース所属の手続き

GDS コース所属にあたっては、入学前に「GDS コース所属届」および「志望理由書」を提出しておくことが必要となります。入学前に実施される「GDS コースガイダンス」にて配布される資料「社会学部グローバル・データサイエンスコース(GDS)所属希望届」に基づいて、所定の手続きを行ってください。**なお、2020 年 4 月入学予定者向けの GDS コースガイダンスは、新型コロナウイルスの感染が広がりを見せていることから中止となりました。GDS コース所属希望者は、ガイダンス出席に代わり、本資料と大学 HP 上に公開されているガイダンス動画をよく確認し、本コースの詳しい内容と、入学前に提出が必要な書類について理解をしてください。**

「社会学部グローバル・データサイエンスコース(GDS)所属希望届」は、社会学科、メディア社会学科に 1 年生として所属する予定の学生すべてに提出の権利があります。ただし、**GDS コース所属希望者が著しく多い場合は、入学時に行われる英語プレースメントテスト等の英語力を確認できる成績および志望理由書によって、コース所属の可否を決定します。コース所属希望者は 4 月冒頭に武蔵大学内で実施される英語テストを必ず受験してください。**GDS コース所属の可否は 4 月初旬に発表されます。なお、GDS コース所属を前提とした入学試験の合格者については、所属希望届と志望理由書を提出することで、英語プレースメントテスト等の成績に関わらず、GDS コース所属が許可されます(この場合も英語力の確認のため、4 月冒頭の英語テストは必ず受験してください)。

なお、2020 年度は新型コロナウイルス感染の拡大状況次第で英語テスト等の実施日程・方法等が変更になる可能性があります。GDS コース所属希望者は随時大学 HP 上で最新情報を必ず確認してください。

② GDS コース所属に必要な費用

1) コース登録料

GDS コース所属にあたっては、所定の GDS コース登録料が必要となります。コース登録料は 1 年間 6 万円で、卒業するまでの 4 年間で 24 万円です。(留年等で卒業期が伸びた場合は、その分の登録料が追加してかかります。)指定の期日までに支払いがない場合、コース所属が取消となりますので注意してください。

2) 海外英語研修、GDS 実践等の費用

GDS コース所属学生が 1 年次第 2 クォーターで履修する海外英語研修や、「GDS 実践」の修得に伴う、さまざまな留学、インターンシップ、ボランティア活動のための諸費用は、すべて学生の自己負担となります。

3) 奨学金

2)で示した諸費用の学生負担を軽減するため、GDS コース所属学生に対して様々な奨学金を設置しています。1 年次第 2 クォーターで実施する海外英語研修では、IELTS の目標スコアに達した学生には 40 万円、目標スコアに達しなかった学生には 20 万円の奨学金が研修終了後に給付される予定です。GDS 実践に伴う奨学金については、海外渡航をして実践活動を行い、所定の報告書を提出して単位を修得した場合、渡航先に応じて、その渡航費用を補填する奨学金が給付される予定です。

(3) GDS コース所属における学修の流れ

GDS コースでは、下表のような流れで 4 年間の学修を進めていきます。

学年	学期	履修内容
1	前期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 外国語科目は「英語 I」を週 4 回履修し、「海外英語研修 A・B・C」の履修に備える。 ■ 専門科目は「初年次基礎ゼミ」「コンピューティング基礎」「メディア社会学」「社会学原論 A」を各週 2 回履修し、後期からの専門科目の履修に備える。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「海外英語研修 A・B・C」で集中的な英語のトレーニングを実施。 ■ 総合科目で「クリティカル・シンキング」「Sociology」の履修を推奨(「Sociology」は IELTS5.5 以上のスコアを持つことが望ましい)。 ■ 外国語科目は「英語 I」を週 2 回履修し、「海外英語研修 A・B・C」後の英語力をさらに向上させる。 ■ 専門科目は「初年次応用ゼミ」「社会調査方法論基礎 1・2」「データサイエンス基礎」「社会学原論 B」を履修。また、「社会統計学 1」の履修を推奨。社会学研究およびメディア社会学研究の基礎を修得する。
2	前期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 外国語科目では「英語 II」を履修し、より深く英語を身につける。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「論文の書き方」(英語アカデミックライティング)の履修を推奨。 ■ 「方法論ゼミ」を履修し、卒業研究の方法論の修得を目指す。
3	前期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「専門ゼミ1」を履修し、経験を活かした卒業研究をスタートさせる。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「専門ゼミ2」を履修し、経験を活かした卒業研究を軌道にのせる。
4	前期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「卒業研究ゼミ」を履修し、卒業研究の成果物の作成を開始する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」を履修し、成果物を提出し口述審査を受ける。成果物は、卒業活動にもとづく報告書でもよい。

■ 総合科目・全学対象専門科目等の英語で開講される科目の履修を推奨し、1 年次の英語の集中的トレーニングの成果を実践的に用いる機会を設ける。

一定期間以上の異文化体験・現場体験の機会をもち、「GDS 実践」として修得する。

■ 大学院進学奨励学生制度を利用して大学院科目の履修も可能であり、より深い学問の思考に触れることができる。

(4)-1 GDS コースにおける語学履修の考え方

GDS コースではさまざまな外国語の中でも、英語の修得に最も力を入れています。英語のみでの履修で卒業単位の中のすべての外国語の単位を充足することも可能です。自身の関心に応じて、どの言語を在学中に学ぶか、よく検討してください。

(4)-2 GDS コースにおける英語履修の考え方

- ・太字部分は、全ての GDS コース所属学生が原則として学ばなければいけない科目の説明です。
- ・下線部分は、卒業単位として必修と設定されている科目の説明です。
- ・斜体部分は、全ての GDS コース所属学生が、強く履修を推奨される科目の説明です。

GDS コースでの英語の学びでは二つのゴールが設定されています。

一つ目のゴール: 海外英語研修への参加、英語で行われる授業の履修など、基礎的な英語力(各種英語試験スコア)の獲得

二つ目のゴール: 社会学部の学びの中で、自分自身で社会を分析した結果を英語で情報発信できる能力の獲得

この中でも特に一つ目のゴールとして IELTS5.5 相当の英語力を獲得することを目標としてください。この目標は第 2 クォーターでの海外英語研修で達成することが強く期待されます。達成できなかった場合、継続的に IELTS の受験が推奨されます。

この二つのゴールを達成するため、GDS コースでは以下のような英語のカリキュラムが組まれています。また、特に英語資格のスコアが上昇しない学生向けに Musashi Communication Village (MCV) の活用を推奨しています。

一つ目のゴール達成にむけて開講されている授業

- ・ **1 年次第 1 クォーターで、週 4 回の英語の授業を受けます** [「英語 I」: 2 科目 2 単位、必修外国語]
- ・ **1 年次第 2 クォーターで、6 週間の海外英語研修に行きます** [「海外英語研修」: 3 科目 6 単位、選択外国語ですが、すべて総合科目としての算入が推奨されています]
- ・ **海外英語研修の費用は学生の自己負担ですが、大学から一定額の奨学金を支給予定です。ただし、獲得できた IELTS スコアによって額の増減があります。**

二つ目のゴール達成に向けて開講されている授業

- ・ **1 年次後期で、週 2 回の英語の授業を受けます** [「英語 I」: 2 科目 2 単位、必修外国語]
- ・ **2 年次で、週 1 回の英語の授業を 1 年間受けます** [「英語 II」: 2 科目 2 単位、必修外国語]
- ・ 1 年次後期に、週 2 回英語で社会学を学ぶ授業を受けます [「Sociology」: 1 科目 4 単位、総合科目]

さらに英語力を高めるためのオプション

- ・ 1 年次後期以降に、英語で実施される様々な内容の総合科目の授業を受けます。
- ・ 2 年次に、週 1 回の英語の授業を追加します [「プラクティカル・イングリッシュ」等: 2 科目 2 単位、選択外国語]
- ・ 2~3 年次に「論文の書き方」(英語アカデミックライティングの授業)を受けます。

(4)-3 海外英語研修

海外英語研修は、GDSコース所属学生が英語の能力を高め、IELTS試験で高得点を上げることができるように、6月～7月にオーストラリアのケアンズにて実施されます。この研修参加の目標はIELTSのoverallカテゴリーで5.5以上のスコア(各項目で5.0以上のスコア)を取得することです。IELTS試験はケアンズで受験してもらいます。

参考までに、2019年度の海外英語研修にかかる費用は総額約60万円でした。これに対して大学からは、研修参加者全員に20万円の奨学金が支給されました。さらに成果型奨学金として、1年次12月までにIELTSスコアが5.5以上に達した研修参加者にはさらに20万円が支給されました。(すなわち2019年度は、IELTSスコアが5.5を超えた場合の個人負担額は約20万円でした)。なお、2019年度の研修参加者のうち約85%が、1年次12月までにIELTSスコアが5.5以上に達しています。

(5) データサイエンスの学び

GDSコースでは、社会学部に新設される新たな情報科学系方法科目をはじめとする多様な方法科目を、通常の社会学部の学生よりも多く学ぶ必要があります。

方法科目の修得単位数

通常社会学部学生:12単位

GDSコース所属学生:22単位

※ どちらも卒業要件上の修得すべき単位数は124単位です。

特にGDSコース所属学生は「データサイエンス基礎」が必修科目となります。

データサイエンスの学びでは、文科系志望の学生が対象であることを念頭に置き、比較的難易度の低いデータ分析の方法から、高度な統計的な技術を必要とするデータ分析の方法まで、幅広く学ぶことが可能です。

(『Musashi Magazine』の科目表、方法科目の欄を参照)

実社会で行われているデータサイエンスの実情、技法を学ぶ「データサイエンス特別講義」などの授業が準備されています。

「データサイエンス特別講義」では日本ユニシスとの協働により、日本ユニシスの現場の活動を学ぶ授業を実施します。「データサイエンス応用」では、ADKとの協定に基づき、ADKで実際に活用しているリアルマーケットデータの分析、発表を行う実践的な授業をおこないます。

これらの授業では、GDSコース所属学生に優先履修の機会を設けます。

(6)GDS 実践

GDSコース所属者は、2～3年次の適切な時期に「GDS実践」を修得しなくてはなりません。どの学年のどの学期に修得するかは、自身の履修計画に従って慎重に判断してください。

「GDS実践」の修得方法は以下の通りです。

①前期あるいは後期に開講される集中授業の「GDS実践」を履修し、修得します。

この授業では、3回程度の事前指導があり、その中で自身がどのような活動を行うか計画します。

②計画に基づいて実践活動を行います。実践活動の例は以下の通りです。

協定留学・認定留学・TUIとの単位互換プログラム

国際ボランティア・国際インターンシップ・私費留学

国内での国際関連のボランティア活動、国内でのデータサイエンス関係のインターンシップ活動
その他、「GDS 実践」の授業内で特に認めた活動

③実践活動後に報告書を提出します。

なお、GDS 実践で国際ボランティア・国際インターンシップに参加する場合は、渡航先に応じて一定の学内奨学金が用意されています。2019 年度の奨学金は、海外渡航費用および旅行傷害保険料の実費を補填するものとして、一定の金額内(上限額:アジア地域 10 万円、北米・ヨーロッパ・オセアニア地域 15 万円、その他(南米・アフリカ等)地域 20 万円)で支給されました。

渡航費・傷害保険料以外に必要な国際ボランティア・インターンシップ参加費用(約 10～約 30 万円)は個人負担となります。

(7)卒業活動報告書による卒業

GDS コース所属学生は卒業論文・卒業制作に代えて、卒業活動報告書を提出することができます。卒業活動報告書とは、在学期間中に、おおむね半年間あるいはそれ以上の、社会的意義のある活動(国内外での活動、あるいは国内でのデータサイエンスに関わる活動)に従事した上で、その活動について記述した報告書のことです。

なお、卒業活動報告書において報告できる「活動」は正課の授業、課外活動を除きます(大学でのサークル活動、「GDS 実践」として単位修得した活動は除かれます)。

(8)学科をまたいだ方法論ゼミ、専門ゼミの履修

GDS コース所属学生はその所属学科に関わらず、社会学科とメディア社会学科、両学科の方法論ゼミ、専門ゼミを希望しエントリーすることができます。

(9)学科をまたいだ展開科目の履修

GDS コース所属学生は、社会学科の展開科目とメディア社会学科の展開科目の両方を展開科目として履修することができます。

(10)履修ガイダンス及び相談会

GDS コース所属学生を対象とした履修ガイダンス及び相談会を、入学年次の 4 月に行われるガイダンス期間に実施します。GDS 特有の履修の方法を再確認するとともに、学生の英語力、数学力をヒアリングしたうえで、大学生活で実現したいこと、将来のキャリアの目標を達成するための履修計画を指導します。

※注意:2020 年度は、新型コロナウイルス感染の拡大状況次第で英語テスト等の実施日程・方法等が変更になる可能性があります。GDS コース所属希望者は随時大学 HP 上を確認し、最新情報を入手するよう心がけてください。

本資料の内容は一部変更される可能性がありますので、予めご了承ください。